歴史は、風土に磨かれる。

網走には「セブンミュージアム」と呼ばれる
7つの博物館施設があります。
オホーツクや網走を舞台とする作品は数多く、
文学や美術などさまざまなジャンルにわたります。
昔もいまも、網走の風土はなぜ人々を魅了するのでしょうか。

たとえば、作家・司馬遼太郎は
代表作の一つ『街道をゆく オホーツク街道』の中で
オホーツク海沿岸で発見された多くの遺跡を訪ね、
北方狩猟民族・モヨロ人の源流に思いを馳せています。
また、網走市立美術館開館のきっかけとなった
網走出身の画家・居串佳一は、
オホーツクの風土や人々の生活を叙情的に表した
多くの作品を残しました。

流氷が去って海が明け、オホーツクブルーに輝く海。
湖や湿地でいのちをつなぐ鳥や草花。
秋のサンゴ草、雪原に光る樹氷。
そうした自然美と人々の暮らしの風景が相まって
網走らしい独特の詩情が
醸し出されているのかもしれません。

古くはオホーツク文化の時代から
網走刑務所の誕生した明治時代、
さらに大正、昭和、平成と時は移っても、
変わらないのは、ここ網走に心の居場所を求めて
生きる人がいるということ。
その歩みを伝えていくのは、
いまを生きる私たちの大切な役割です。

濤沸湖水鳥・湿地センター

北海道立北方民族博物館

モヨロ貝塚館

オホーツク流氷館

網走市立美術館

網走市立郷土博物館

Seven Museums

Abashiri is home to seven museums: the Okhotsk Ryu-hyo Museum, Abashiri Prison Museum, Hokkaido Museum of Northern Peoples, Tofutsu-ko Waterfowl and Wetland Center, Abashiri Kyodo (Hometown) Museum, Abashiri Museum of Art and Moyoro Shell Mound Museum. These museums provide insights into the history and natural environment of Abashiri over the past 1,300 years.

博物館　網走監獄